

# 品目：ねぎ

環境こだわり農産物の基準(5割以下の基準)

化学合成農薬(延べ使用成分数) 4成分以下(中ねぎ・冬穫り)

化学肥料(窒素分量) 12kg/10a以内(中ねぎ・冬穫り)

## 技術体系例 ねぎ 中ねぎ・冬穫り

生育ステージ	作付前		育苗			植付時	生育期間中											
	作付体系	7~8月	播種前	播種前	播種後		全般	生育初期	生育中期	生育後期								
防除時期 ・ 使用資材 ・ 薬剤名等	ほ場ローテーション	太陽熱消毒	ハウス内の蒸し込み	雨よけハウス育苗	セル育苗購入培土利用	防虫ネット 黄色粘着板 寒冷紗被覆	殺虫剤 マルチ被覆 紫外線カットフィルム	捕殺	防虫ネット	病害株の引き抜き 黄色粘着板	黄色灯 性フェロモン剤(交尾阻害)	殺虫剤 B T剤	殺菌剤 B T剤	B T剤	殺虫剤	殺虫剤		
立枯性病害	★	★		★	★					★								
さび病	★	★											●					
べと病				★						★			●					
アブラムシ類			★		★				★									
シロイチモジトウ			★		★			★	★		★	★		★	★	● ●		
アザミウマ類			★		★		●*	★	★	★		●				●		
ネギハモグリバエ			★		★	★	●	★	★	★	★					●		
(例)使用農薬						アクタラ粒剤5					ヨトウコンS	モスピラン水溶液	ゼンタリー顆粒水和剤	アミスター20フロアブル	ゼンタリー顆粒水和剤	ゼンタリー顆粒水和剤	スピノエース顆粒水和剤	アフアーム乳剤
化学合成農薬成分数						1						1	1				1	

注) ●: 薬剤防除対象病害虫、★: 天然資材または耕種的手法  
 農薬の登録は随時変更があるので、農薬の使用にあたっては、必ず農薬ラベルを確認し適正に使用する。  
 \* 印のものは、登録の対象害虫等が限られているので登録を確認する。  
 ほ場周辺は除草剤を使用せず、草刈機による管理またはグランドカバープランツを植栽する。

## 病気 さび病

発生しやすい時期

9月頃～11月頃

原因（発生要因）

- ・ 病気にかかったねぎから、かびが飛んでうつります。
- ・ 15℃前後で湿気が多い時に出やすい病気です。
- ・ たまねぎ、わけぎ、にらなどからうつります。



さび病の病斑

対策（減農薬技術）

- ・ 排水の悪いほ場では暗きよや排水溝を作ってしっかり排水します。
- ・ たまねぎなどで発病したほ場近くでは栽培を避けます。
- ・ 発病した株は早めに抜き取ります。

## 害虫 ネギハモグリバエ



ネギハモグリバエの被害



ネギハモグリバエの成虫

発生しやすい時期

7月下旬頃～9月中旬頃

## 原因（発生要因）

- ・ 成虫が飛んできて、卵を産みつけます。
- ・ 6月～7月に雨が少ないと発生が多くなることがあります。

## 対策（減農薬技術）

- ・ 幼苗期から発生に注意し、早めに薬剤防除を行います。

## 害虫 **シロイチモジヨトウ**

### 発生しやすい時期

7月頃～11月頃

### 原因（発生要因）

- ・ 成虫が、卵を産みつけます。
- ・ 卵がかえって幼虫になると葉を食べはじめます



シロイチモジヨトウの幼虫

### 対策（減農薬技術）

- ・ 草丈の低い時期に卵を産みつけることが多いので、その時期に防虫ネットのトンネルをかぶせます。
- ・ 葉に潜り込むと農薬もかかりにくく、幼虫が大きくなると農薬も効きにくくなるので、早めに農薬を散布します。
- ・ B T 剤（化学合成農薬として数えない農薬）を利用します。